

# 無量壽

平成22年8月1日  
浄土真宗 本願寺派  
林徳寺 発行  
025 - 276 - 3456

## 浄土真宗物語⑭

本願寺第三代覚如上人には、存覚、從覚という二人の子どもがおられました。

ことに長男の存覚様は非常に優れた学者であられ、親鸞聖人の書かれた浄土真宗の根本聖典『教行信証』の、初めての解説書である『六要抄』を初めとする、多くの著書があります。

覚如上人が本願寺の「寺」としての独立、浄土真宗の「宗」としての独立を目指されたのに対して存覚様は、親鸞聖人のお弟子たちを開祖とする教団との関係を重視され、本願寺の独立には熱心ではありませんでした。

そのため、関東に広がっていた親鸞聖人のお弟子を開祖とする教団からは、覚如上人の評判が悪化し、存覚様の信望が高まる事となりました。

当時の本願寺は、関東の教団からの送金が主な収入源という状況でしたから、その意向は無視でき

ず、その事がもととなって、覚如上人と存覚様の親子関係が悪化しました。

一度は本願寺の留守職を存覚様に譲られた覚如上人は、8年後に存覚様を義絶して、再び自ら本願寺留守職に復帰されています。その後一度は義絶を解かれたのですが、そのあとに再び義絶され、覚如上人が亡くなられる前年までその義絶は続きました。

このような状況は、本願寺と関東の教団との関係を一層難しいものとしていきました。

優れた学者であり、関東の教団からの依頼で多くの著書などを送ってその教化に努めていた存覚様を留守職に付けたいと、関東教団は覚如上人に働きかけていたようです。また義絶された後は、早くその義絶を解くよう要請もなされていきました。しかし覚如上人はその要請を拒絶し、存覚様が決して留守職につくことができないような対応までされました。

この結果、全国の浄土真宗門徒は本願寺に参拝せず、下野(栃木県)の高田専修寺に参拝するようになっていきました。

本願寺は収入の道を立たれ、厳しい状況を迎えざるを得なくなったのです。

本願寺第四代は、存覚様の弟である從覚様

のお子様、善如

上人が継がれ

ました。

存覚様は、善

如上人の時代

においてもよ

くその補佐を

され、関東や北

陸の他の真宗



平成14年の関東御旧跡参拝旅行で  
高田専修寺を参拝しました

教団との関係を保ちながら、布教に努められました。その努力が、後日、本願寺八代目、蓮如上人による本願寺大発展の基礎となったといえます。

存覚様が晩年お住まいになった寺が常楽台で、現在も西本願寺の門前にあります。林徳寺に伝わる蓮如上人の六字名号を鑑定されたの



蓮如上人六字名号の  
鑑定書 (林徳寺蔵)

が、常楽台

の何代目

かの住職

です。

続く

## 『本山参拝と新緑の関西名所巡りの旅』の報告

平成22年6月9日(水)～11日(金)の2泊3日で、林徳寺・林徳寺誠心会共催の団体参拝を実施いたしました。47名の方に参加頂き、新緑の京都・大阪・神戸を散策する旅でしたが、お陰様で無事に終了いたしました。その様子を報告いたします。

6月9日 新潟空港→伊丹空港→大谷本廟→本山参拝→京都東急ホテル



大谷本廟にて



飛雲閣



本願寺 御影堂前にて

6月10日 本山晨朝参拝→通天閣→四天王寺→大阪城→なんば花月→須磨温泉



大阪城 石山本願寺記念碑前にて



大阪城 蓮如上人袈裟掛けの松



なんば花月

6月11日 宿→離宮公園→南京町→異人館→震災メモリアルパーク→伊丹空港→新潟



離宮公園



異人館近くの急坂にて



震災メモリアルパーク

### 《以心伝心》

日本語になった仏教の言葉 ⑬

もとは禅宗の言葉で、師が文字や言葉を超えた悟りの境地を、弟子に心をもつて伝えることをいいます。

もちろん、言葉を用いないで自分の思いを相手に伝えることはできません。

けれども、どんなに多くの言葉を重ねても、その言葉に心が込められていなければ、これまた相手に自分の真意を伝えることはできないのです。

「心」は「心」によってしか伝わらないと言って良いのではないのでしょうか。そのような意味がこの言葉に表されていると感じます。

言葉は、「心」を伝える補助手段として働いたときに、その本当の役割を果たすといえます。

禅問答の一つに、「仏とは何か?」という問いに、「乾いた糞」と答えたというものがあるそうです。以心伝心で伝わる悟りの境地なのでしょうが、私には理解できません!